

公表 事業所における自己評価結果

事業所名		こどもトレーニングひろば 第一校 (児童発達支援)		公表日		令和7年 3月 21日		
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点			
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		国が定める基準以上の広さを確保	物でスペースが狭くならないよう整理整頓を心がける		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		国が定める基準以上の職員数を配置			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		オープンスペースになっており周りが見渡せる環境になっている トイレも子供用に改修	オープンスペースになっているので子供達が自由に走り回っているので転倒のリスクあり		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		危険な箇所はないか常に意識している 整理整頓を心がけ余計なものを出さないように工夫している	療育部屋の危険箇所を都度確認する必要あり		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		クールダウンできる空間を提供している 自分でクールダウンが必要と判断した場合はいつでも利用できる	大きな声で話をしてしまうと周りに聞こえてしまう 声を小さくして話を聞くようにしている		
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		目標を設定する際は全職員で検討している	振り返りの回数が少ないと感じる もっと振り返りを大切にしていこうシステム作りを検討していく		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		保護者からの評価を真摯に受け止め職員会議にて改善、対策案を検討している	保護者がなんでも言いやすい環境を提供していくことが必要と感じる		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		職員会議などの全体会議だけでなく、朝礼などの少人数の場でも業務改善に向けた話し合いができています	チェックリストを作成するなど、何が改善できて何が改善できていないかをしっかり把握できるようにしていきたい		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		外部からの評価はまだ実施していない 今後、検討していく		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		研修補助費支給など研修を推奨している 就業時間内での研修参加も実績あり	事業所単位での研修も増やしていきたい		
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		支援プログラムを作成しHPで公表している	事業所内にも見えるところに掲示しておく		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		半年に1回保護者面談を実施 必要であれば関係機関へアセスメントを実施	個人情報の取り扱いには注意が必要		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		保護者面談を実施する前に全職員で子供一人一人の評価を実施 内容も保護者へフィードバックしている			
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		職員はいつでも計画書を閲覧できる 閲覧したらチェックするようしており全職員が閲覧したのかを把握することができる	共通認識はあると思うが、明確化されていないため職員それぞれの理解で支援していることもある		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		全通所共通の評価バッテリーを実施している 保護者にもわかりやすくフィードバックしている	特性に応じた評価バッテリーを使用できるように検討していく		
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		個別支援計画書ではその子に応じた支援内容を5領域で設定している 専門的支援計画書でもセラピストからの目線で評価を行い支援内容を検討している	地域支援に対しては今後力を入れていく必要があると感じている		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		保育士、児童指導員、PT、OT、STのチームで立案し実施している			
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		毎日違ったレクリエーションを立案し実施している	参加できない子どもへの対応を検討している		

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		個別活動と集団活動どちらの支援も実施 子供に応じた支援を毎日検討している	集団活動への参加率が低くなっている
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		朝礼時にその日のリーダーから活動内容について説明がある 役割もその時に確認している	計画通りにいかないときも多いため臨機応変な対応が必要
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		何か連絡事項があればラインワークスにて情報を共有するようにしている	その日に振り返ることが良いとは感じているが実施が難しい
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		支援記録は毎日一人ずつ取っている 保護者にも共有している	記録に時間がかかってしまうため改善が必要
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		定められた頻度でのモニタリングと必要に応じてケース会議を実施している	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		個別支援計画書でも基本活動を組み合わせる支援ができるよう立案している	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		学校や医療機関とは連携をとりながら支援を実施	学校や医療機関以外との交流が少ないため今後の課題にしていく
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		併行利用に関しては推奨している 支援内容も共有し子供達が負担なく過ごせるよう支援している	意見の食い違いなどもあるため調整は難しい場合もある
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		関係機関とは必要な時にすぐ連携が取れる体制は確保できている	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○		センターでの様子や専門職の評価結果を保護者を通して情報共有してもらっている	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		○		子供同士の交流は今までしたことがないため今後検討していきたいと思います
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		ご利用した日には必ずその日の状況を細かく伝えるようにしている	お伝えは送迎時がほとんどであるため時間の確保が難しい
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		YouTubeにてペアレントトレーニング動画を配信している	家族参加型のイベントで子供の様子を説明することはある	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時に説明 支援プログラムについてはHPに掲載	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		半年に一度は面談を実施し保護者と子供の意思をヒアリングしている 面談以外にも都度面談実施	普段から子供の意思を聞けるように話しやすい環境の提供が必要
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		面談で話した内容をもとに計画書を作成している 保護者にも直接計画書を見ながら説明	

保護者への説明等	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		面談は事業所での様子をお伝えするだけでなく日頃の家庭の様子も聞くようにしている 適宜保護者面談も提案	保護者の方もお仕事をしているので時間の確保が課題と感じている
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		保護者参加型のイベント実施	保護者だけの交流会はできていない 今後は取り入れていけるよう検討 兄弟支援に関しては一緒に参加できるイベントを立案していく
	40	こどもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		相談や申し入れに関しては、必要であれば相談支援員に共有し迅速に対応できる体制を整えている	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		HP上に活動内容を報告している 半年に一度事業所通信を発行し保護者に活動報告を実施	今後はSNSを用いた活動報告も検討
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報の取り扱いについては全職員に対し周知徹底している	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		話をしやすい環境を提供	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		地域との関わりが少ないため今後の課題
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○			
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		BCP策定済み 研修、訓練ともに実施している	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		事前に保護者から子供の状況を聴取し全職員に周知している	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		イベント時に食材を使用する場合はすべての食材を保護者に確認し同意を得ている	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画策定済み 研修、訓練ともに実施している	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		安全計画を周知し家族と連携を図れるようにしている	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハット委員会を法人で設置し共有できる体制を確保している	
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		虐待防止委員会をを適宜開催している 対応が必要な場合には迅速に対応できるようにしている		
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		身体拘束が必要な子供には事前に保護者に説明をしている 計画書にも記載している		